環境パートナーシップちば
だより
— つながれ ひろがれ —

Vol.46
編 集 環境パートナーシップちば
代 表 加 藤 賢 三
事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
(財) 千葉県環境財団環境技術部
環境活動推進チーム
電 話 043−246-2180
ＦＡＸ 043−246-6969

～印旛沼をきれいにする活動報告～印旛沼こども会議開催

環パちばの 17 年度の事業「印旛沼をきれいにする活動」は今年で 2 年目になります。

＜印旛沼をきれいにする活動＞

今年７月に、大勢の親子が屋形船に乗って印旛沼を学び、前後して、印旛沼に流れ込む川を実際に歩きながら、水質の調査を続けました。

子ども達も大人の「わいわい会議」に負けないくらい、活動をとおして実体験をしています。

印旛沼の役割、生き物、水の汚れを観察、調査、ごみ拾いなど体験活動しました。印旛沼の美しい景色を大切にするだけではなく、千葉県の多くの人が印旛沼の水を飲み、利用していることを学び、どうすれば水を汚れないようにできるか、「見て」「さわって」「考えて」きました。そこで、子ども達が体験したことを、自分たちでまとめ、発表する報告会を 10 月 30 日開催しました。

＜Ⅰ部　　よみがえれ印旛沼に参加＞

当日は、風車のある「佐倉ふるさと広場」で開催された「印旛沼一斉清掃と流域交流の集い」に参加して、ゴミ袋を片手に印旛沼湖畔の清掃をしました。短い時間でしたが、集まった大勢の協力で一瞬のことではありますが、ゴミのない印旛沼になりました。

この日は楽しい秋祭りもかね、「印旛沼を知ろうコーナー」や「わいわいお祭りコーナー」など楽しみながら印旛沼を知り、印旛沼を親しむイベントが盛りだくさんでした。

＜Ⅱ部　　子ども達の発表＞

印旛沼の清掃活動に参加した子ども達は、急ぎ、近くにある臼井自治会館に集まり、「印旛沼こども会議」を開きました。

子ども達の発表は①屋形船に乗って調べた印旛沼、②手繰川、③鹿島川、高崎川、④神崎川、⑤花輪川、桑納川、新川と川ごとに、受け持ったこども達を中心に、父兄と一緒に「わいわい」発表し大人顔負けです。手繰川を調べた、ガールスカウト千葉 84 団は、2 年連続体験者が多いチームです。昨年に比べると水質は良くなっていると報告がありました。桑納川では、ナガエツルノゲイトウが護岸に生えていること。鹿島川、高崎川では、地元の人から、「時々白い水が流れてくる」との情報があり今後調査していきたいなど、継続する必要が出てきました。

水を汚さないようにする為に私達ができることは、「水を大切に使う」「食べ物を残さない」「ごみを拾う」など、気をつけて生活することが大切と共感しました。最後に、ガンバッタ子ども達に、「印旛沼水はかせ賞」を環パちばより贈りました。

(文責　　千葉　智雄)

もう待てない！ストップ温暖化
～千葉からアクションを～

******環境シンポジウム２００５千葉会議報告******

環境シンポジウム実行委員会委員長　大西　　優子

環境シンポジウム２００５千葉会議は標記をテーマに、９月～１０月に５つの分科会の開催から始まり、１１月１３日の全体会を持って終了しました。

第１分科会　行動を！ひとりひとりがエコライフ（９月１０日千葉大学　参加９６名）
「緊迫する地球温暖化・求められる私たちの行動」の特別講演と５つの事例発表、エコライフや行政に対する提案・提言、環境教育・市民への啓発についてグループ討議。

第２分科会　ＰＥＴボトル物語―便利だけど…（９月１１日　日本大学　参加４０名）
ＰＥＴボトルの製造から廃棄までの現状や問題点を知り、消費者としてかかわる自分たちの役目、温暖化との関係やごみ問題について。

第３分科会　自然との共生？私たちが活動を続けていくために（９月９日千葉大学　参加４３名）
棚田づくりの水俣市愛林館と鴨川市大山千枚田保存会から、棚田づくりと環境と経済を両立するための取り組みについての報告。

第４分科会　もったいないから始まる温暖化防止～落ちた葉っぱはすてればゴミ、活かせば腐葉土
（９月２４～２５日手賀の丘少年自然の家　参加４８名）
環境保全と環境教育の具体化と発展の事例として、腐葉土づくりキット製作と利用の方法について。

第５分科会　聞いて見て学ぼう、そして行動を（１０月１日日本大学　参加７８名）
地球温暖化の影響と対策の講演と４つの事例発表。市民・学生・行政・企業がそれぞれ環境保全活動について語り・学び、行動につなげる場として学生の工作物を発表。

１１月１３日の全体会は、千葉大学で１６６名の参加で開催いたしました。

基調講演は千葉大学の広井良典教授の、環境と福祉をトータルに捉えようという「定常型社会のビジョン」でした。詳しくお聞きしたいお話でした。

次に、ポスターセッションと短時間でしたが特色を活かした５分科会と、千葉大学生が呼びかけた環境問題に真摯に取り組む学生のワークショップが行われました。

「温暖化対策における協働について」の千葉大学倉阪秀史助教授の調査報告は注目を集め、続いて千葉県・千葉市・市川市・船橋市・茂原市の自治体の報告がありました。

全体会最後に、パネルデスカッションが日本大学木田哲量教授のコーディネーターにより、昨年の環境シンポジウム２００４千葉会議の「宣言」である「千葉からアクション」を具体的に提案する目的で行われました。市民・企業・行政・学生それぞれの立場から取り組んでいること、これから行おうとしていることの発言があり、会場との応答がありました。温暖化について一人一人が取り組むアクションは、広範囲にわたるため具体的内容については、次回実行委員会で提案することでパネルデスカッションは終わりました。

11 年前、環境シンポジウム千葉会議が開催された当時は、環境活動を行っている市民団体も、意見交換や交流の場も少なくこのシンポジウムは、待たれていた開催でした。

環境教育、ごみ、里山、水、地球温暖化など、分野毎のフォーラムなどが数多く開催されている現在、環境シンポジウム千葉会議のあり方を見直す必要があると考えます。
その検討のため、新 10 年ワーキンググループが設置されていますのでご意見ご提案をお寄せください。

環境シンポジウム千葉会議は、環境パートナーシップちば発足の母体でもあり、環パちばは全面的に協力してまいりました。今後とも、環境シンポジウム千葉会議の発展のため、さらなるご協力とご支援をお願いいたします。

人々の協働で、根気強く、地道に、粘り強い活動を

環境シンポジウム千葉会議実行委員　茂原市在住　中間　芳弘

環境シンポジウム千葉会議は、1995 年に第 1 回目を開催してから今年で第 11 回目を迎えました。昨年は、記念誌「10 年の歩み」を発行し第 10 回記念大会を開催しています。

今年の環境シンポジウム 2005 千葉会議は、9 月 9 日から 10 月 1 日の間に 5 つの分科会を開催し、11 月 13 日に全体会を行って終えました。毎年のことながら、運営委員会と実行委員会を開いて、メーンテーマや分科会と全体会の内容、役員分担、開催期日などを決めています。シンポジウムの開催に当っては、数十名の実行委員が数ヶ月にわたり準備し、幹部役員は費用収集や関連機関との折衝に多くの時日を費やしています。また、開催場所も一昨年と昨年は日本大学生産工学部の御厚意により同学部

で開催、今年は千葉大学公共研究センターの御厚意で同大学西千葉地区で開催することができました。関係機関および関係者に厚く御礼申し上げます。

顧みますと、環境パートナーシップちば（以下、「環パちば」と略します）は、環境シンポジウム 1995 千葉会議開催をきっかけとして 1997 年 6 月 29 日に設立総会を催して発足しました。環境シンポジウム千葉会議が昨年 10 周年なら、「環パちば」は来年創立 10 周年を迎えるわけで、ご同慶の至りであり、おめでとうございます。設立のころ私は茂原市リサイクル推進委員会会計を担当しており、故大木一男同会長（環境シンポジウム 1997 千葉会議実行委員長）と一緒に、環パちばの総会に参加しました。初代会長は鈴木優子さんであったと記憶いたしております。私は個人会員としても入会したことは言うまでもありません。その後、年を経るごとに会員数の増加と発展して行く様子は頼もしく感じております。

現在、私の地域における環境活動は、町内長寿クラブ活動の一つとして不燃物ごみの中から空き缶を回収し市のリサイクルに加えること、千葉県整備センターの協力事業で町内を流れる一宮川堤防の草刈りをして環境保全と美化の活動をしています。どちらも町内の 40 名ほどの方々の協力を得て、1 ヶ月のうち半日を費やして汗を流す作業を行っております。

このような活動を通して私の思いは、1955 年頃の学生時代、1940 年山崩れによる被害に遭った六甲山麓の街神戸で過ごし地球環境保全の大切さに気づきました。次に、高度成長期時代の会社生活で絶対に公害を出してはならないとひとえに-思い入れますが、会社という塀の中に居ると、つい井の中の蛙となり世の中知らずとなってしまいます。いざ定年退職して世の中の風に当ってみますと、自分が世の中に貢献すべき道は何かを改めて考え、地域のまちづくりや環境保全活動、リサイクル活動、地球温暖化防止活動など様々な事例にぶち当たりました。そして、どれに携わってみても共通することは、自分一人ではできない、住民・市民・行政・企業などで多くの人々と関わり、協働して、コツコツと持続的に歩まなければならないこと、面倒くさがってはダメであることと認識しました。私の環境活動を指導して下さった故大木一男会長は常に「関係する人々との協働により、根気強く、地道に、粘り強い活動を」と言われ、私はこの言葉を座右の銘にして今日も頑張っております。

環境シンポジウム千葉会議における環境教育分科会の活動

横山　清美

環境シンポジウム千葉会議環境教育分科会の 2004 年は、「環境教育のための戦略的な提案」として具体的に、環境教育指導者育成システムづくり、地域の特徴を生かした市民を育む環境教育教材づくり、市民主体の地域活動拠点づくり、環境教育推進の基金や助成金・補助金制度の確立、親子で始める環境学習を推進、環境教育を推進するためのネットワークづくりなどを提案しました。その後広く意見交換の実施や実行委員会での検討を通して、2005 年の環境教育分科会の活動を計画してきました。これは、分科会自らの提案に対する具体的な活動をモデルとして提示できるような実践活動計画です。そして、地域の特徴を生かした環境教育の教材づくりを浦安をモデルとして進め、プロセスも記録していく計画としました。

2005 年の活動は、浦安の小･中学校の現状を見学することから始めましたが、直ぐに総合学習に結びつけるのは難しいことでした。しかし校庭というどの地域にも共通する素材を使用し、校庭の落ち葉を活用して「腐葉土づくり」アクティビティを実施することとするまでには、そう時間は要しませんでした。この後、「腐葉土つくりキット」としてコンパネ製のものと、竹製のものを 8 月に試作し、9 月の手賀の丘少年自然の家における 1 泊 2 日の「もったいないからの温暖化防止～地球をさます千葉の人材づくり、教材づくり」の分科会でのワークショップ「腐葉土つくりの活用を環境教育の視点から推進するには」でご意見をいただきました。現在、コンパネキットは千葉市のさつきが丘東小学校に設置させていただき、近くに住むメンバーが養生しています。竹キットは、浦安中学校での総合学習に活用し、やはりただ今養生中です。

11 月 13 日の全体会では、これまでの活動を、「「ヨシアンドフレンズのマジックショー」～ミスター・ヨシのハンドパワーで葉っぱは？！というショー仕立てで、初めての人にもわかりやすい発表として好評を得ることができました。

環境教育分科会ではこれらのアクティビティ開発

の他に、2002年から市民活動団体による環境教育活動の事例報告と交流の場を提供してきています。2004年からは自治体と企業の環境保全・環境学習活動の事例の発表もお願いしています。2005年は、テーマを温暖化防止にしたことから、市民活動団体より自治体のほうが事例数も多くなりその結果、相互交流も形になってきました。企業の事例が集まりにくいのが、今後の課題となっています。

このように、環境教育分科会では、アクティビティの開発、行政･企業･市民のパートナーシップ、活動の交流などを視点として継続した活動をしています。今後は、経済や福祉などとの連関も検討していく方向にあると考えています。

11月：マジックショー

9月：腐葉土つくりキットの組み立て

花見川から印旛沼までのエコウォーキング
～河口から花島橋まで～

環パちばの17年度の主事業「印旛沼をきれいにする活動」の一環である、「花見川から印旛沼までのエコウォーキング」を、11月30日(水)開催しました。

この活動は、飲み水として使われている湖や沼の中で、ワースト1の印旛沼を、広く周知し、どうすれば印旛沼浄化につながるのかを、エコウォーキングしながら学習する啓発の場として位置づけています。また印旛沼環境基金の助成金をいただき、今年は2年目の活動です。昨年は、千葉市の花島公園から八千代市の文化伝承館まで歩きました。今年は、花見川河口から花島橋までの、約9ｋｍを歩きました。「だより」での広報、環パちばスタッフからのお誘いで、当初予定の20名を上回り40名の参加者がありました。この中の18名は、千葉工大生命環境化学科3年生と院生の若者でした。

JR新検見川駅9時に集合し、千葉西高校行きのバスに乗り、花見川終末処理場の中にある千葉県印旛沼下水道事務所に向かいました。まず、下水道の仕組みを、ビデオ等で説明を聞きました。ここでは、処理水に関する質問や意見が活発に出ました。処理水は現在、幕張メッセのホテルのトイレや噴水などに使用されています。処理水は飲める水になりうるのか？上水をトイレに使用している現在、この処理水利用の可能性は、今後ますます検討の余地があるようです。

説明の後は、場内の施設見学です。沈殿池での臭いが、エアレーションタンクのところでは活性汚泥の臭いに変化しています。また、高度処理にオゾンが使用され浄水場と同じような処理がなされていました。この処理水を利用しているビオトープ（トンボ池）を見学しました。トンボ池ができた頃は、学校のプールにいるヤゴをもらって放していたそうですが、現在は自然にトンボが繁殖しているとの事です。この日もアキアカネが産卵していました。講義室にもどり活性汚泥の働きを、30分の時間経過毎にCODパックテストで見ました。

お弁当を食べてから、花見川に出ました。観察

は河添　寿子氏(千葉県自然観察指導員協議会)、斉藤久芳氏（千葉市環境保全推進課)、谷　英男氏(千葉県自然観察指導員協議会)のご指導の下、3グループに別れ歩きました。下水処理した水が流れてくるところには、カモが集っています。水温が温かい事と餌が多い為だそうです。幕張橋のあたりで旧河口を見、潮留橋では、水位が上流にある大和田排水機場でコントロールされていることを知りました。この橋の辺りから田園風景に変わります。不耕作水田が多い中、ところどころに耕作した小さな田んぼが残っています。土地改変していない様子です。いろいろな生物がいるのでは、ホタルも生息できるのでは・・・と期待してしまいます。一方河川敷の方は違法耕作が行われ、バリケードをつくり棲んでいる人、集会の場所にしている人もいました。釣り人のための足場もたくさんありました。水辺は人をひきつけるようです。花見川の水質は、河口の方がよく上流は悪いです。勝田川、高津川の水と新川(印旛沼)の水が水源です。流れの無い川で、水質活性の為印旛沼の水を流したらとよく話題に上がります。水質を除けば、景観は良く、花見川大橋あたりからは渓谷のように一変します。この日も紅葉がすばらしいでした。渡り鳥は以前は多く来ていましたが、最近は少なくなっているとのことです。このことは全国共通のようです。ホシハジロ、セグロカモメ、カワセミ、アオサギなど18種類見ることができました。今回は講師陣に恵まれ、また真面目に取り組む学生さんたちと一緒に活動でき、実り多いエコウォーキングでした。

(報告　桑波田　和子)

印旛沼わいわい会議

「印旛沼再生にかかわる市民・NPO意見交換会」という堅苦しい名称を、もっと親しみやすい名称にということで「印旛沼わいわい会議」と名称を改め、さらに印旛沼に流入する河川の流域によって抱えている問題が異なることなどを考慮し、10月25日に八街市で鹿島川・高崎川の流域の方に、11月5日に八千代市で桑納川流域の方を対象に開催されました。

印旛沼わいわい会議 in やちまた（10月25日（火））

～大地からのメッセージ～

NPO委員　荒尾　繁志

準備会で話し合いの結果、「恵み豊かな印旛沼の再生」を目指した緊急行動計画の目標にのっとり、次の四つの分科会を立ち上げました。

1．　**さあ始めよう！　印旛沼あっぷ　（下水道・生活廃水・雨水浸透）**
2．　**里やまは水源だ!　（湧水・谷津田）**
3．　**あなたは生ゴミをどうしていますか？（生活環境改善・産廃）**
4．　**生き残れる農業はこれだ！（消費者の指向・ちばエコ農業・これからの農業）**

“わいわい会議 in やちまた”は午前中に現地見学会が２コース計画され、“みためし行動”で谷津の湧水を調査している太田谷津と大池調整池を巡るコースと、環境にやさしい農業機械と施肥の実演を見るコースで、それぞれ好評のうちに終了しました。私が参加した太田谷津は典型的な台地の谷津（集水域　約二十四㌶）で、谷津の流出口に湧水量・水質・地下水位などを計測する機材が置かれ、年間を通じてデーターを取り分析しているとのことでした。

午後は前述の分科会に分かれ、市民・ＮＰＯの

方々、そして行政の方も１参加者として、「恵み豊かな印旛沼の再生」を目指していろいろと話し合われました。私のテーマは堀田和弘先生と詰めた結果、市民の皆さんに一番身近なところにある「生ごみ」です。千葉県環境生活部の方から「千葉県の生ごみ対策」としていろいろとお話いただきましたが、出

来るだけ生ごみを出さない工夫をし、自然環境に影響を及ぼさないように自然に戻してほしいと。八街市からは「ごみ問題=印旛沼の水質改善に繋がるのですか?」と参加者に逆提案されたり四街道の方から「ごみはごみを呼ぶ！」と提案されたりで、なかなか面白い会議でした。参加していただいた皆さんからは、活動されている地域のお話や、困っているお話も出てきて、十分に皆さんとお話できなかったことが心残りですが、最後に主婦の方から「私たち自身が、出来るだけ出さない工夫をし、出たものは可能な限り自分達で（水質を悪化させないように）処理することなのですね」とまとめていただき分科会を終わりました。

全体会ではそれぞれの分科会から報告がなされましたが、印象的なものは第一分科会が実施したもので、１リットルの水に一滴の醤油やら汚濁物質を入れていくと、あっと言う間に印旛沼の水質になってしまうということでした。気付かない間に私たち自身が印旛沼の水質を悪化させていることを確認できた会議でした。

印旛沼わいわい会議 in やちよ（11月5日（土））

～桑納川から新川に～

NPO委員　桑波田　和子

「わいわい会議　in　やちよ」は、11月5日千代市役所において開催されました。
ここでは、桑納川、新川流域を中心とした会議です。当日は、地元八千代市を中心に船橋市、佐倉市、千葉市他、印旛沼浄化に係わる市民活動している人、関心のある人、行政の人、約230名の参加者がありました。

午前中は、①アダプト制度とエコ農業について、花輪川。②市民、企業、行政とのグランドワーク方式による「ほたるの里」。③印旛沼の水をコントロールしている「大和田排水機場」の3箇所を見学しました。定員50名を超える参加があり、2台のマイクロバスと、乗用車6台の長い列ができました。見学地点では、説明を聞き、散策して体験し、エコ農業の看板のあるところでは、農家の方の説明を聞くことができました。この見学会は、午後の話し合いの参考としました。

午後は、まず全体会で説明がありました。

①恵の沼の再生に向けて（緊急行動計画の説明）
②印旛沼と水道③桑納川の水質について

分科会は

１．　命の水、私の足元から！（下水道・生活排水・雨水浸透)。
２．　ホタル飛びかう水辺復活（ホタルも棲める環境作り)。
３．　広げよう！！ちばエコ農業（つくる人・買う人それぞれが抱えている問題)。
４．　桑納川の川作りを考える（桑納川の歴史や生き物など)

を開催し、約2時間「わいわい会議」を展開しました。

桑納川は印旛沼に流れる流域の中で環境負荷が大きい川です。それは上流部に住宅が多く、また今でも都市開発が進んでいます。また工場や牧場も多くあります。この状況を踏まえ、市民活動団体の取組み、行政の取組みを通して、今後どう行動に結ぶ

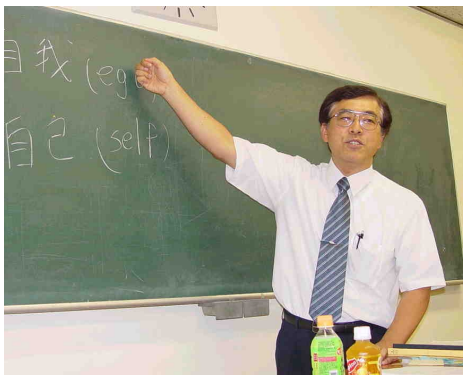
のかが課題です。私の担当の第2分科会では、ホタルを通して水

辺復活を話し合いました。行政からは、市環境保全課他、県の各機関の担当者が参加され、市民の質問等に答えていただきました。「環境教育の必要性とグリーンコンシュマーを増やすことで、農家を応援しまちづくりにつなげる」。「今いるホタルを保全する活動と、開発にさらされていても、私達にできることをやる」。「行政と市民で出来る事を検討していく」、「若い人の参加が必要」等意見が出ました。生き物が棲める環境作りがひいては印旛沼の浄化に役立つことを念頭に入れ今後も活動しましょうと元気付けあいました。

分科会終了後の全体会では、分科会報告があり、フロアーとの活発な意見交換がありました。最後に「やちよ会議」からのメッセージとして「印旛沼を良くするも悪くするも、私達の足元からだ！！」と発信して終了しました。

今後「わいわい会議」は、今年2会場の会議の意見を集約し、すぐ実行できるものは、来年2月に開催予定の「印旛沼行動大会」で発表し、検討を要するものは「印旛沼健全化会議」で検討され具体化されると期待しています。

～エコサロン～　広報部



千の葉エコプロジェクトについて

千の葉エコプロジェクトに関して、9 月 27 日に千葉市中央コミニュテイセンターで千葉県環境生活部、資源循環推進課の原　正則氏にお話を伺いました。人間の中の自我（ego）と自己（self）とのかかわりにおいて、環境問題を理解するという哲学的な講義を聞くような雰囲気から話しが始まりました。

まず、「千の葉エコプロジェクト」誕生の周辺の話として、平成 17 年には千葉県資源循環型社会づくり推進レポートが千葉県資源循環型社会づくり推進会議（千の葉（せんのは）エコプロジェクト推進会議から出され、その流れの中で県では、県民、NPO、事業者などが循環型社会をつくるために取り組んでいる活動事例（＝エコプロジェクト）を募集しました。応募されたものの中から、「千葉県資源循環型社会づくり推進会議」で選定された取り組みを「環境樹」の形にして（財）千葉県環境財団のホームページで紹介しています。　目標は平成２０年度までに１０００事例以上（平成１７年９月２１日現在４３７事例）となっています。

話をうかがった感想として、事業所の取り組みの事例が極端に少ないことが気になりました。この事例が増えることが、千の葉をつけた樹木が大きな環境樹になるために必須と思いました。多くの事業所がこの取り組みに興味を持っていただき、これが、企業イメージとＣＳＲの向上につながるものと、期待されるようになるといいかと思います。そして、千の葉に認定されることが、各主体にとってインセンティブを与えるように進化して行くことが望ましいと思いました。

（社）千葉県環境保全協議会について

11 月１６日船橋市女性センターで局長の菅谷政春氏の話を伺いました。　公害の歴史、特に水俣病の話では、当時国内では７箇所で生産を行っていたのになぜチッソだけがあのような大惨事を引き起こしたのかなど、公害原論そのもののお話から始まりました。そして、環境問題が公害問題という排出責任が比較的に判明しやすい形から排出責任が広がった不特定多数の一般問題へとシフトした現代的な事柄が主流となっている現状がうかがわれました。

ちなみに、（社）千葉県環境保全協議会（URL：http://www9.ocn.ne.jp/~chikanho/）の旧名称は社団法人、千葉県公害防止管理者協議会で、平成６年７月に現在の名前に変更しました。会の目的は、大きく分けて二つあります。１）公害防止管理者等の環境保全に関する知識・技術の涵養と相互理解と交流、２）会員ならびに県民に対し、環境に関する知識の普及啓発を通して工場・事業場における環境管理の円滑な遂行と地域における環境保全に資すること、です。会員は県内製造業など、２５０工場、事業場の方です。主な事業は、１）研修・講習事業（公害防止管理者等国家試験のための準備・講習会など）、２）情報提供（行政法令の改正等官公庁の通知文や資料の提供）、３）地域部会活動（県内 11 部会での情報交換、勉強会の開催、各種委員会活動など）です。

上記のような中で、公害問題は事業所が努力しているにもかかわらず発生する現状に、予防的に対処するために千葉県環境保全協議会の事務局長としてのご苦労が伺われまた。そして、菅谷さんのお話を伺う中で、事業者と行政と市民をつなぐ協働について学ぶよいヒントが得られていると思いました。

次回のエコサロン

日時　平成 18 年 1 月 25 日（水）18 時～20 時半（最長の場合は 21 時まで）
場所　船橋市女性センター　第一会議室　　参加費　５００円（資料代）
テーマ１：（仮）ＧＩＳで印旛沼・花見川・東京湾を見る
講師：西川　肇氏　（日大生産工学部土木工学課　教授）
テーマ２：（仮）最近の環境市民活動の取組＋ＧＩＳ
講師：荒尾　稔氏（株式会社トータルメディア研究所　代表取締役
里山シンポジウム実行委員会　事務局長）

申し込み先:中岡丈恵
Fax
０４７-３８５-８９５０
e-mail
naka.hta@trust.ocn.ne.jp

お知らせコーナ

★スノーワンダー　清里で会いましょう
「センス・オブ・ワンダー」清里フォーラム２００６
日　時:２００６年2月１７日（金）～１９日（日）
会　場：財団法人　キープ協会　キープ自然学校
内　容：シンポジウム
「センス・オブ・ワンダーを伝える日本型インタープリター」
　ワークショップ・体験プログラム・自由参加プログラムなど
定　員：７０名（定員になり次第締切）
参加費:一般　２９，０００円、　JRCC会員　２４，０００円
主催　NPO法人　レイチェル・カーソン日本協会
お申し込み・お問合せ
「センス・オブ・ワンダー清里フォーラム2006」事務局：加藤
Tel・Fax：03-3822-3597　E－mail：tkatoh-4312@cone.ne.jp

★地球温暖化防止について
やさしい体験型環境講座
日　時　平成１８年2月４日(土)
　　１０時～１６時
場　所　さわやかちば県民プラザ（柏市）
対　象　　一般の方　誰でも大歓迎
人　員　　４０名　申込み先着順
参加費　　無料
申込締切日　　平成１８年１月１８日(水)
地球環境の学習　　10時～１２時
体験学習コース別の学習　　１３時～１６時
申込・問合せ先：ストップ地球温暖化千葉推進
　　会議「体験型環境講座」受付
電話・ファックス　０４７-３４５-６４２８
E－mail　take3537@sage.ocn.ne.jp

総務部より　11月運営委員会報告

日時：　平成１７年１１月１６(火)
場所：　船橋市女性センター

●報告
・環境シンポジウム千葉会議２００５
・第２回わいわい会議　・里山シンポジウム
・　ＮＰＯ意見交換会は平成１７年１１月１４日に行われ、環境パートナーシップちばでは「環境学習・教育のあり方、見直し」の提案を行った。

●　審議　今後予定されている活動
・１１月のエコサロン（報告済み）
　日時　平成17年11月16日（水）
・花見川エコウォーキング(報告済み)
　日時　平成17年11月30日（水）午前9時～午後3時
・１月のエコサロン　日時　平成18年1月25日（水）
・印旛沼流域フォーラム
　日時　平成１８年2月１９日または２６日
　主催　環境パートナーシップちば

●　来年度の事業展開
来年は１０周年にあたる。１０年の活動で、「環境パートナーシップちば」は何を残せるかを検討。

●　広報
・だより４６号　印刷は１２月５日（月）／八千代サポートセンター
・だより４７号　来年１月末に発行予定。

広報部より
1. 皆様の活動やお知らせなどの原稿をお寄せください。
2. ホームページに団体のリンクや連絡先としてメールアドレス等の記載をご希望の方はご連絡ください。

HP：www.geocities.co.jp/NatureLand/4632/

●　予算
補助金等の交付を受ける機関に、あらかじめ活動報告と経費内容を本日午前中に報告した。細部について若干の指摘があったが概ね了解された。

●　次回　運営委員会
平成１８年1月２５日（水）
１５：００～１７：００、
場所：船橋市女性センター

古紙100%再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政および専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。
申込先：千葉県環境財団　環境技術部
　　環境活動推進ﾁｰﾑ気付
TEL:043-246-2180　　FAX:043-246-6969
会費納入先：環境パートナーシップちば
郵便振替口座　00160-9-401872
http://www1.u-netsurf.ne.jp/~kanpachi/

千葉県環境財団環境技術部環境活動推進ﾁｰﾑ気付
＜環境パートナーシップちば＞
入会申込書
会の趣旨に賛同し（個人、団体、賛助会員として）
会費を添えて入会します

氏 名		入会年月日	
住 所	〒		
ＴＥＬ		ＦＡＸ	
年会費	個人1,000円　団体2,000円　賛助会員5,000円		